

時の動き

P F A S 汚染の解決に向け、水は全てのいのちの源

新社会党 市民運動委員長

甲斐 正康



2020年1月6日、朝日新聞にてショッキングな記事「横田基地近くの井戸から有害物質、米国の飲用水基準の19倍」が紙面を飾りました。

それは、米国の専門家たちが「フオーエバー・ケミカル」とニックネームを付ける有機フッ素化合物、PFAS^{ピエフアス}という日本人にはあまり聞き慣れない物質が東京の水源井戸を汚染しているという現実です。

初めて聞いたその物質。PFASとは何か。

5000種類ほどあると言われる有機フッ素化合物の総称がPFASであり、そのうち特に毒性が強いとされる

のがPF^{ピエフ}O^オAとPF^{ピエフ}O^オSです。

その物質が人体に及ぼす影響は、母胎が体内にPFASを含んだ場合の低体重出産、乳幼児の感染症抵抗力の減少、発がん性、ヒトの血液、免疫系、肝臓、腎臓などの障害と米国やヨーロッパでは既に関連付けられています。

耐熱性、耐油性、耐水性に特に強く、生活に密着した様々な用途で現在幅広く使用されるが、東京における主な水源汚染の元は、米軍が米軍基地内で消火訓練の際に使用する泡消火剤、その泡消火剤が地下水に流出し、そこから水源を汚染しているのでは、と当時から報道で言われていました。

PFAS規制に関して、当時は今で言う暫定目標値（基準値ではない）すらなく、その後、2020年4月1日によく日本では「水道水1リットル中のPFOS・PFOA合算の濃度で50ナノグラム以下」を暫定目標値としたが、専門家の中では日本におけるこのPFAS基準値はまだまだ高く、10ナノグラムを基準値とするべきである、という声が上がっていました。

私はこの報道があつた直後に「絶対」にこの汚染はもっと広がる」と確信を持ちました。実際にその後、東京だけではなく、日本全国各地からPFAS汚染の報道がマスコミを賑わし、その

◆時の動き

2023年三鷹市議会議員選挙の際に、
手作り作成街頭配布したPFAS資料

三鷹市 無所属 甲斐まさやす がおくる
元大型トラックドライバー 運転手歴20年 社長が認めたエースドライバー！！
3分でわかる #みちばたにゆーす vo.2 PFAS (有機フッ素化合物)編

Q PFAS (有機フッ素化合物)ってなあに？
A PFAS (有機フッ素化合物)とは、約5000種類ほどある有機フッ素化合物の総称だよ。
アメリカでは PFASのうち最も毒性が強いとされるPFOA、PFOSを免がん性や
免疫力の低下など人体に悪影響があるため、規制を強化したよ。

Q 日本でPFAS汚染は発生しているの？
A 2016年、沖縄の河川や地下水から高濃度のPFAS汚染が検出されたよ。その後、東京では
国立市、府中市、国分寺市、調布市、立川市、小平市、西東京市の飲料用地下水からも検出されたよ。

Q 日本での規制は？国や自治体での対策はしていないの？
A 日本では水道水1リットル中50ナノグラム以下を安全基準値としているけど、
アメリカの基準値より約3000倍規制が緩いのもかかわらず、国は規制の強化を見送ったんだ…

近隣市で高濃度のPFAS汚染が発生した現在、三鷹市では希望する市民全員
の血液検査を無料で実施すると共に、市として都知事に対し、米軍横田基地
に対しPFAS汚染の立ち入り調査を求めると僕は主張しています！



甲斐まさやす 妻・ようこ

汚染が日本だけでなく世界中で問題
になりました。

そして当時から私はこの問題について、「日米地位協定がある限り、多摩地域のPFAS汚染はなくなるならぬ」。問題の根本解決をするには、「日米地位協定を改定する以外にない」と、発信していました。

汚染源と疑われる横田基地

在日米軍の特権を認めた日米地位協定では、日本の関係機関は米軍基地に許可なく立ち入ることは出来ません。

しかし日米地位協定の「環境補足協定」に基づき、米軍基地で環境に影響を及ぼす事故が発生した場合、日本側が立ち入り調査を申請できる場合があり、それは日米地位協定の「環境補足協定」に基づく立ち入り調査。だが米軍が環境に影響を及ぼす事故(漏出)を認めた場合、米軍が日本側に事故発生の通報を行った場合に限り、日本側が申請しても在日米軍が拒否をすれば、これだけ強く疑われているにも

関わらず、その汚染源を特定することすら出来ない。これでは、問題の根本解決がいつまで経っても出来ません。私たち人間の身体の約6割は水でできている、と言われ、人間だけではなく動物や植物、地球上の全ての生命体は、水がなければ生きていけないのです。

国や自治体がいままで経っても及び腰では、国民の生命を守れない。そこでようやく、2024年12月20日に「横田基地PFAS立ち入り」という記事が紙面を飾りました。

もちろんたった1回の立ち入りだけでは何も解決せず、その後も継続した調査が求められます。

空気、水、食。これがなければ私たちは生きていけない。その食すらも、水がなければ育ちません。水は全てのいのちの源です。絶対に守り抜かなければいけないのです。

(かい まさやす)